

第4章 ダイオキシン類調査結果

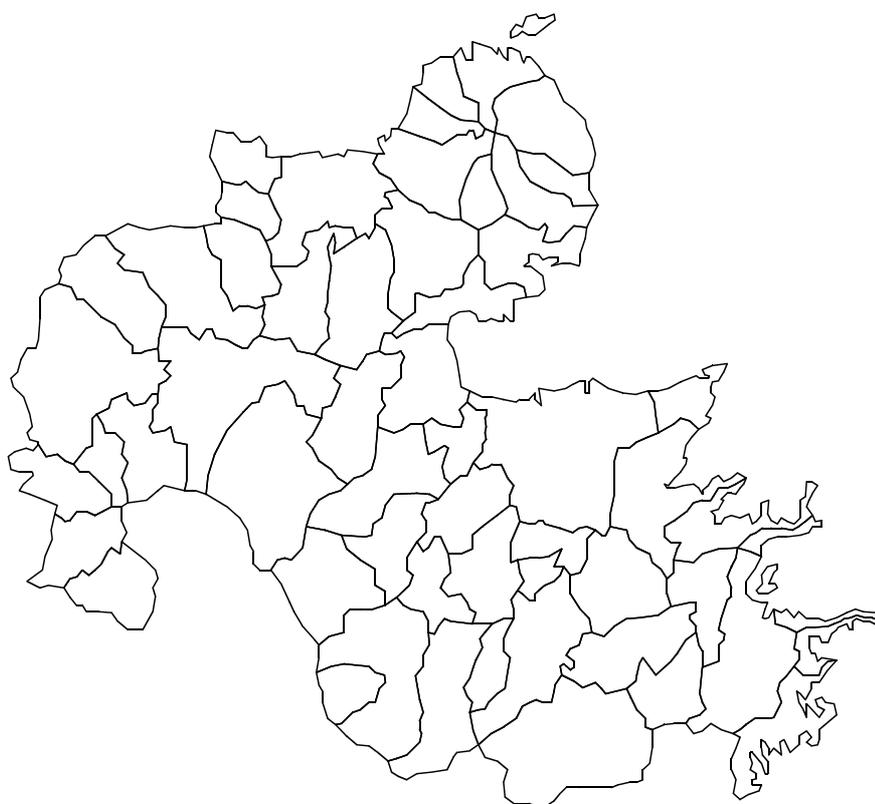
県下のダイオキシン汚染の実態を把握するため、平成10年度から大気の調査を行ってきた。

平成16年度は、県下の5市1町の計6地点を対象に、大気環境中のダイオキシン類の調査を行った。

調査地点・期間

調査地点：別府市、日田市、竹田市、中津市、佐伯市、日出町の計6地点

調査期間：平成16年6月～平成17年1月



番号	地域区分	調査地点	市町村名
	一般環境	中央保健所	別府市
		日田玖珠保健所	日田市
		竹田保健所	竹田市
		中津下毛地方振興局	中津市
		佐伯市役所第二庁舎	佐伯市
	発生源周辺	グラウンド	日出町

調査方法

ハイボリュームエアサンプラーによりフィルター及びウレタンに捕集し、高分解能ガスクロマトグラフ質量分析装置により分析を行う。

毒性等量の算定は、WTO-TEF(1998年)による(検出下限値以上定量下限値未満はそのままの値を、検出下限値未満は検出下限値の1/2を用いて毒性等量を算出)。

調査結果

各調査地点ごとの調査結果を表4-2に示す。

各地点の測定値は0.008～0.060pg-TEQ/m³の範囲内にあり、全調査地点とも環境基準値の0.6pg-TEQ/m³を下回っており、環境基準に適合している。

また、全調査地点の平均値は0.022pg-TEQ/m³で、平成16年度の大分市以外の全調査地点の平均値0.019pg-TEQ/m³を若干上回っている。

表4-2 ダイオキシン類調査結果

(単位:pg-TEQ/m³)

調査地点名		設置年月	測定濃度	地点別平均濃度	環境基準	備考
一般環境	中央保健所 (別府市)	16年 6月	0.017	0.019	0.6	(左記の集計結果) 0.008～0.060 (地点別平均の平均値) 平成15年度 0.019 平成16年度 0.022
		16年 8月	0.017			
		16年 10月	0.021			
		17年 1月	0.021			
	日田玖珠 保健所 (日田市)	16年 6月	0.017	0.033		
		16年 8月	0.021			
		16年 10月	0.032			
		17年 1月	0.060			
	竹田保健所 (竹田市)	16年 6月	0.009	0.017		
		16年 9月	0.009			
		16年 11月	0.019			
		17年 1月	0.029			
	中津下毛 地方振興局 (中津市)	16年 6月	0.025	0.026		
		16年 8月	0.018			
		16年 10月	0.024			
		17年 1月	0.035			
佐伯市役所 第二庁舎 (佐伯市)	16年 6月	0.008	0.015			
	16年 9月	0.018				
	16年 11月	0.016				
	17年 1月	0.018				
発生源周辺	グラウンド (日出町)	16年 5月	0.013	0.024	(地点別平均の平均値) 平成15年度 0.022 平成16年度 0.024	
		16年 8月	0.028			
		16年 10月	0.021			
		17年 1月	0.033			

・測定結果は、ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン、ポリ塩化ジベンゾフラン及びコプラナーポリ塩化ビフェニル(コプラナーPCB)の合計値である。

・pg-TEQ/m³は、空気1m³当たりのダイオキシン類の量を示す。

・pgは1兆分の1グラム、TEQは毒性等量で、ダイオキシン類には222種類(異性体)があり、毒性は異性体ごとに異なるため、測定対象の29物質の濃度を最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの濃度の換算し、合計したものである。